

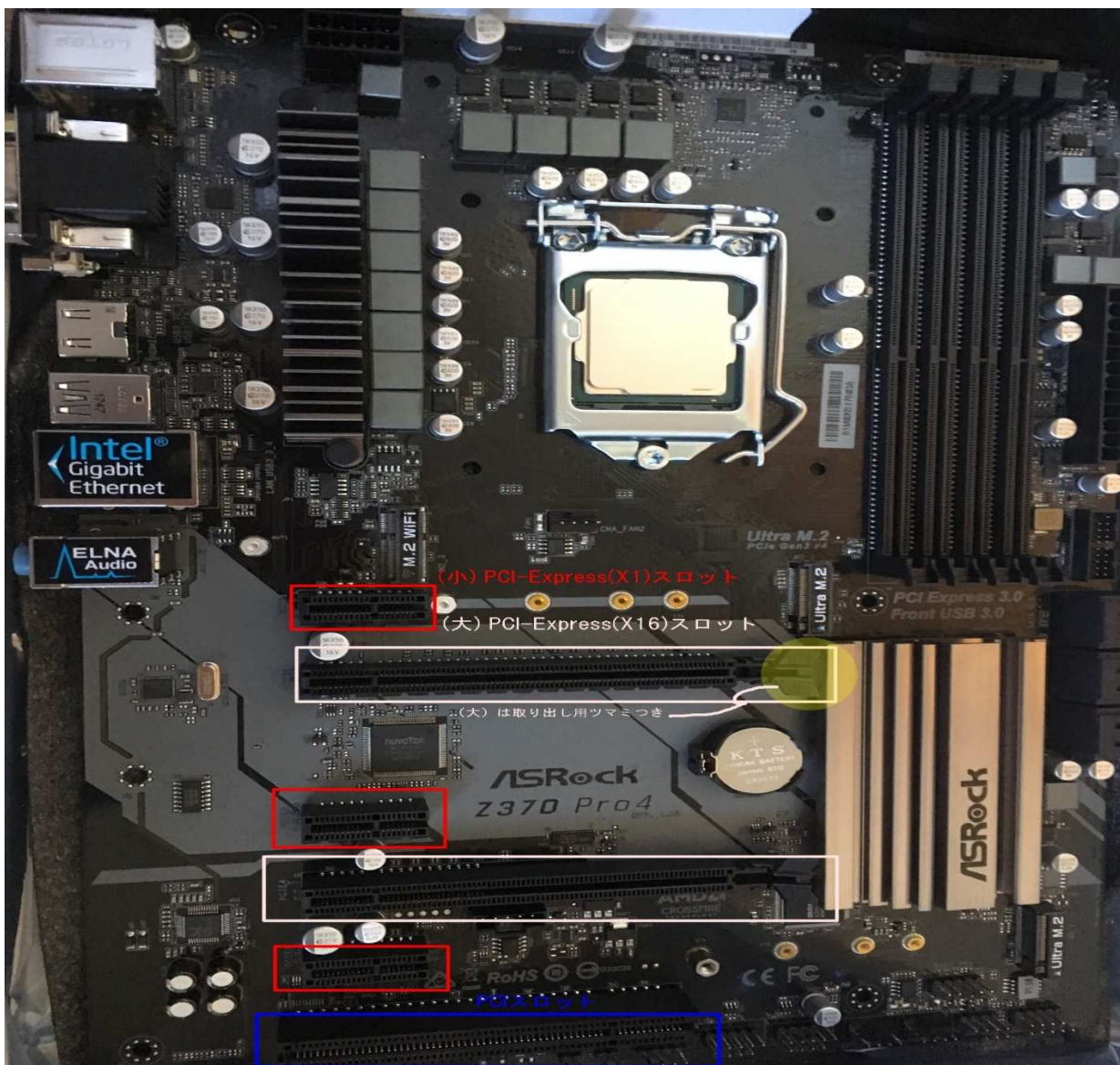
③ 拡張カードを取り付ける場所を決める

🐦 拡張カードは自作 PC の醍醐味！

拡張カードは、実はどんな PC にもついているものではありません。最近のノート PC は、周辺機器を挿す穴がどんどん少なくなる傾向にあります。（MacBook 2015 などは、USB3.1 穴が1つあるだけ）デスクトップ PC も、価格の安いものは拡張カードは1種類もついていなかったりします。

ゲーム向け PC の価格が高い理由の主なものが、マザーボードと別にグラフィックボード（=これも拡張カードの一つ）がついているためだったりします。自作 PC では、グラフィックボードやその他拡張カードは、使用者が好きなものを選ぶことができます。

マザーボード上の拡張カードを挿す場所と、出力装置とどうつながるかを確認：

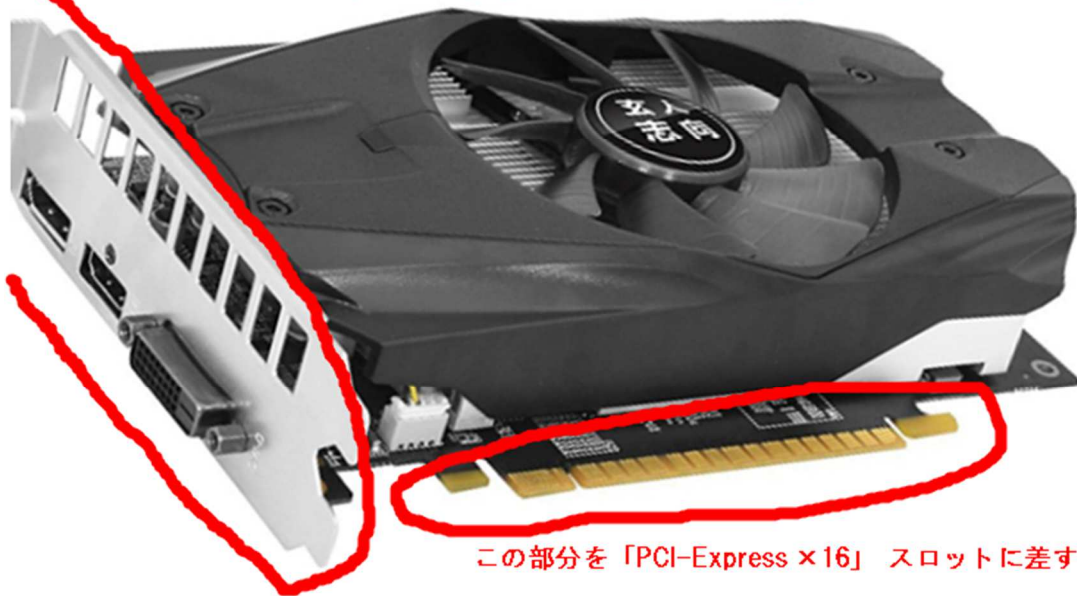


拡張カードは様々な用途のものがあり、挿す場所は拡張カードの種類によって違います。

グラフィックボードは、PCI-Express (×16) スロットに差します。

画像はAmazon.co.jpよりお借りしました。

ココをPCケース背面の「拡張カード取り付け場」にネジで止める

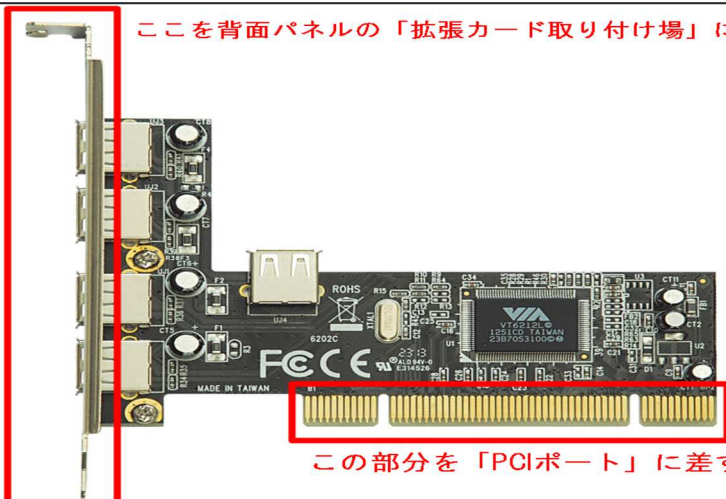


この部分を「PCI-Express ×16」スロットに差す。

PCI Express (×1) スロットには、インターフェースカード（追加の USB ケーブルを挿す穴）や、内部配線用の変換部品を挿すことが多いです。

PCI-4（中ぐらいの長さ）スロットは、実は一昔前の規格の差し込み口で、今では適合する拡張カードは少なくなっています。内部配線用の変換部品や、USB2.0用インターフェースカードなどに使われています。似た名前のスロットで PCI-Express (×4) がありますが、PCI-Express (×4)用の拡張カードは PCI-4 スロットには差しません。

ここを背面パネルの「拡張カード取り付け場」にネジで止める



この部分を「PCIポート」に差す

マザーボード上に差した拡張カードは、マザーボードのどの場所に差したかによって、出力先端子が表面に出てくる場所が違います。各種出力端子は、PC ケースの背面から顔を出します。（マザーボードについている出力端子も同様）



上：グラフィックボードの出力先端子

下：USB2.0 インターフェースカードの出力先端子

拡張カードの出力先端子は、PC ケース背面の下部分の、網目のような物の部分に出てきます。PC ケース背面の拡張カードスロットカバーを、必要に応じて抜いたり外したりしますが、この時、マザーボード上のどの拡張カードスロットに挿すと背面スロットのどこから出力端子が出てくるのかを、事前にチェックすることが

重要です。

実際の拡張カード差しは、かなり後の方になってでも構わないこともあります。